

すべての教職員の皆さんへ

教職員の皆様におかれましては、気持ちも新たに各々の目標に向けて平成24年度のスタートを切られたことと思います。

ご承知のとおり本県には、学力や体力の問題、不登校や暴力行為の生徒指導上の諸問題など、教育課題が山積しています。県教育委員会では、平成20年度から4年間の計画で「学ぶ力を育み心に寄りそう緊急プラン～学力向上・いじめ問題等対策計画～」に取り組んでまいりました。その間、県教育委員会と市町村教育委員会がこれまで以上にベクトルを合わせて取り組みを強化し、そして何よりも教職員の皆さんの頑張りがあって、学力面においては、小学校では、全国平均に達することができ、中学校においては、全国水準にはまだ及ばないものの、全国で最高の改善率となるなど、確実な成果を上げることができました。

このことで、私もやればできる、やらなければならないという思いを強くしたところ です。今後、高知県の子どもたちの幸せのためにさらなる高みを目指し、今以上に学校が組織的に機能するよう、これまでの取り組みを問い直すことも、また当然のことです。

こうした状況下にあるにもかかわらず、教職員の不祥事が後を絶ちません。この度、公立小学校教頭が飲酒後に自動車を運転して物損事故を起こしたうえ、警察署等への連絡も怠ったという事案が発生したため、懲戒免職の処分を行ったところです。子どもたちのために一生懸命に取り組んでいる心ある教職員の思いに水を差し、同時に県民の皆様の公教育に対する不信を招くことになりました。

特に、ここ数年、飲酒運転やスピード違反など自動車運転にまつわる不祥事が連続して発生しておりますし、学校運営を任されている管理職による事案も多く、言い逃れのできない状況になっています。何としてもこの不祥事は断ち切り、公教育に対する県民の皆様の信頼を高めなければ、本県の子どもたちの幸せにつながりません。

こうした時、大切なことは学校が組織として取り組むことです。

もちろん教職員一人一人の自覚やモチベーションを高めることが必要ですが、人間は心の強い人もいれば弱い人もいます。また、心持ちの強い時もあれば弱い時もあります。一人一人の思いと集団としての思いが一致したときに大きな力を発揮することができます。この作用が、逆に一人一人の自覚やモチベーションを高めることにつながります。これが組織力であり、さらにこうしたことを組織風土・組織文化に昇華して、定着させていかなければなりません。

不祥事防止には、特定の者の問題として受け止めるのではなく、弱い人を、また弱っている人を健全な方向性をもった大きな集団の中に巻き込んでいくことが肝要です。

皆さんの学校はどうでしょうか。学校が組織として、開かれ難い体質や個に頼るような問題がありませんか。

今一度、学校組織としての在り様を教職員全員で話し合ってください。そして、不祥事を断ち切り、皆で本県の教育の向上に取り組んで行かなければならないことを肝に銘じようではありませんか。

平成24年6月1日

高知県教育長

伊澤卓史